

143 本部の東山移転から50年 — 東山集結への道 —

それまで名城キャンパスにあった名古屋大学の本部が、東山への移転を完了したのは、ちょうど50年前の1964(昭和39)年3月のことです。

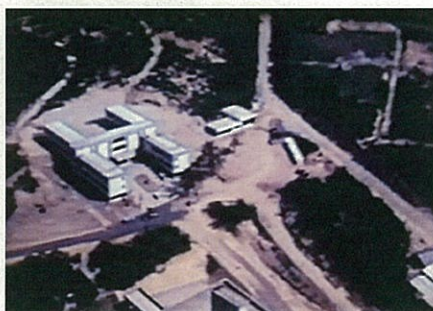
本部の移転場所については、一時は整備計画委員会で理学部北側の斜面という結論が出ましたが、その後理学部・工学部の拡張計画の支障になるとして変更になり、豊田講堂の管理や会議室の利用の便、地形上の理由などから、現在の豊田講堂東側の位置に決定されました。

現在の名大の本部棟群は、1～5号館および別館からなっていますが(5号館は別の場所にあります)、この時に建設されたのは現在の本部2号館の建物です。当初から、上から見るとH型の特徴的な形状をしていました。竣工図によると、1階には学生部など、2階には総長室、事務局長室、庶務部の一部(庶務課と秘書室)、記者室など、3階には施設部と庶務部の一部(人事課)などがあり、地下階は倉庫と車庫だったようです。

ところで、この1963年から64年にかけての時期は、名大キャンパス史における大きな転換期にあたります。

まず1963年1月には文学部が、同年11月には教育学部が名城からの移転を完了し、これで文系の全学部が東山に集まりました。教育学部附属学校の移転完了も1964年1月のことです。また、全ての1・2年生が属する教養部は、1962年より瑞穂キャンパス(現在の名古屋市立大学滝子(山の畑)キャンパス)からの移転を開始し、1964年3月をもってこれを終わりました。まだ安城市に農学部が残っていましたが(1966年に東山へ移転)、この本部の移転によって名実ともに東山が名大の中心になったといえます。

この時の本部棟の建物は、愛知県、名古屋市、名古屋商工会議所などによる名古屋大学整備後援会から建設寄附されたものです。文学部と教育学部の移転費用も同会から寄附されており、地域からの大きな期待に支えられて発展してきた名大の姿をここにも見るすることができます。



1	2	5
3	4	

- 1 東山キャンパスに建設されたばかりの本部棟(竣工図によれば「事務本館」、1964年製作の名古屋大学二葉会「電気学科25年の歩み」の映像より)。豊田講堂の真上あたりから撮影されている。
- 2 1964～65年頃の写真(1964年度経済学部卒業アルバムより)。1964年11月に竣工した附属図書館(古川図書館、現在の古川記念館)の姿も見える。
- 3 1950年代後半の写真。本部棟だけでなく、豊田講堂も建設されていない。
- 4 現在の本部棟群(2012年2月撮影)。
- 5 名城キャンパス(名古屋城二の丸)の本部棟(1962年12月撮影)。